

岡山市区づくり推進事業助成申込書

(地域活動部門)

平成 27年 3月31日

岡山市長 大森雅夫 様

フリガナ「ソバデイキイキ」ジッコウインカイ  
 団体名 「蕎麦でイキイキ」実行委員会  
 所在地 岡山市北区原561-10  
 連絡先 086-228-1521  
 フリガナ ススキ モトサブロウ  
 代表者氏名 須々木 元三郎

※ 提出した申込書の内容が、岡山市のホームページ上で公開されることに同意します。  
 ただし、個人情報に関する部分は除きます。

<p>応募分野</p>	<p>(該当の分野を○で囲んでください。)  <input checked="" type="radio"/> ア 地域課題解決    <input type="radio"/> イ 地域課題掘り起し  <input type="radio"/> ウ 地域計画づくり  <input type="radio"/> エ 地域課題解決型の地域組織づくり    <input type="radio"/> オ その他</p>
<p>事業名称</p>	<p>活動エリアの耕作放棄地再生、限界集落再生、及び環境保全</p>
<p>事業実施区域(小学校区)</p>	<p>主に牧石小学校区(牧山地区) + 御津草生地区</p>
<p>事業実施回数</p>	<p>新規 ・ <input checked="" type="radio"/> 継続    3 回目 (平成25年度下期から)</p>
<p>事業の目的</p>	<p>耕作放棄地を活用し大麦・ソバの栽培を行なう。栽培に関しては「農業体験セミナー」を岡山市立北公民館や地域の婦人会と共催で開催する。さらに収穫した大麦粉・ソバ粉を使った特産品作りをベースに「予約制麺屋」や「一人一屋台イベント」や「こども仕事館」を地元で実施し、都市部と地域の交流を盛んにする。また、いわゆる「よそ者」として地域の従来からのしがらみを俯瞰した限界集落再生の方策「特産品作り」「空き家対策」「集団営農活動」「移住者誘致活動」を提案していく。加えて水源地上流の涵養地という環境側面を重視した、自然栽培(無農薬・無化学肥料)による作物の栽培を実践・支援していく。</p>
<p>事業の必要性</p>	<p>①牧石地区は、黄ニラや青ネギをはじめとして市内でも有数の農産地域である。そんな牧石地区にとっても、就農者の高齢化や耕作放棄地の問題は深刻であり、身近で喫緊の地域課題といえる。          ②この実行委員会は、NPO法人日本素食協会、地元町内会をはじめ、蕎麦打ち教室の生徒さん、岡山市立北公民館で構成される。お預かりした土地も初年度3反で始めたが、今年度は一町分を越えた。これらの土地は、いわゆる耕作放棄地であり、所有者の手に負えない土地である。一方、見方を変えれば貴重な未利用資源である。          ③活動3年目にして下牧町内会内部にも、「農村支援隊」なる組織をつくり現状打破を志向する動きが芽生えつつある。集落外より移住者を受け入れる機運が醸成されつつあると見てよい。「限界集落」脱出のためには、一人でも移住者を受け入れる必要あり、そのためには地域の魅力を発信する必要がある。          ④牧山ラインガルテン管理団体の要請により、今年度より「農産加工室」において、予約制の蕎麦打ち教室、大麦料理講習会、予約制麺屋「三味庵」を開く予定である。同所の経営収支改善を支援する同時に、都市部との人的交流の活性化に貢献したいと考えている。</p>

事業の内容	<p>①大麦・ソバ栽培を「農業体験講座」として市民参加で実施し、事業実施場所に足を運んでもらう。牧石地区・金川草生地区で、夏そばの「春のいぶき」と秋そばの「さちいずみ」を一年に2回生産する。さらに二条大麦「ミハルゴールド」を牧石小学校界隈で栽培する。②収穫した大麦粉・ソバ粉などを使い、牧山クラインガルテンで協力者と共に「大麦料理教室」「蕎麦打ち教室」等のイベントを行う。③地域の環境保全活動として竹林整備事業を歴史的建造物保護のため金山寺で行う。特に要請のあった伐採した竹の処理については、チップパーで粉碎し、われわれの圃場まで搬出し、1年かけて竹堆肥にする。④地産地消教育、ESD活動の一環として、地域の牧石婦人会、北公民館共催で「麦踏体験セミナー」を実施する。</p>
期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業も3年目に入り、天候に左右されながらも収穫が期待できる。また、津山の福田製粉所の支援もあり、大麦粉を使った「特産品作り」に着手する。また、市内の「らんらん亭」という販路も確保しており、試験販売に取り掛かれるものと思う。</li> <li>・下牧下谷町内会の西崎会長が中心になり、我々の活動を「農村支援隊」なる組織をつくり支えてくれる。限界集落脱出には、どうしても地元の人意識が変わることが必要。3年目にしていよいよ本事業の目指す限界集落脱出の出発点に立てる。</li> <li>・この地域のシンボリックな歴史的建造物である「金山寺」より竹林の整備を要請されており、微力ながら冬仕事として竹を切り、竹炭・竹チップに変える活動を新たに加える。</li> <li>・牧山クラインガルテン農産加工室を使用し、蕎麦・大麦麺・大麦料理教室等の試験的取り組みをスタートさせることにより、人的、経済的交流が促進される。</li> </ul>
企画などの工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・棚田のある景観を残したいという地元の思いをビジュアル化し、活動のマイルストーンを共有していくため「集落創生計画」を絵にしていく。</li> <li>・地域の空き家対策に関しては、県、市当局と住民の中立ち役として情報収集に努め、移住促進に努める。</li> <li>・牧山クラインガルテンの施設運営に関しては、側面援助として利用促進に努める。</li> </ul>
事業の情報公開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年は、ラジオモモ「ええものを子孫の代まで～ESDってなに～」のインタビューに北公民館職員と共に出演した。また、岡山市の発行紙「ECOちゃんプラス」の北公民館協働事業として2ページにわたり、活動内容を投稿した。</li> <li>・事業報告に関しては、北公民館館長に半期ごとの報告を行い監査を受けている。</li> <li>・HPの作成を予定している。</li> </ul>
次年度以降の予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この活動をモデルとして、御津草生地区においても、耕作放棄地の再生活動を促進し、現在1.5反預かっているが、3反以上に増やしていきたい。</li> <li>・地域の歴史的建造物「金山寺」は2012本堂全焼以降、荒れ寺となっている。地域の観光資源保護の観点から、冬場の竹林整備を定例事業として実施する。</li> <li>・クラインガルテンでの「蕎麦打ち教室」「大麦料理教室」「一人一工房テント村」「こども仕事館」等のセミナー開催を増やして、人の交流を盛んにする。併せて日曜日などの経済的波及効果を地元農家にもたらしたい。</li> </ul>
その他PRしたい点	

事業スケジュール

			6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
企画会議			大麦粉を使った特産品作りの検討	ソバ粉製粉までの段取り検討。	秋まきソバの播種等のスケジュール検討。熟中症対策	種まき体験の準備 会開催。	ソバの収穫体験セミナー開催の検討。	耕作放棄地再生に関する来年度計画策定。	年内活動総括	平成27年度活動方針決定	金山寺周辺竹林の整備に関して調整	市役所に事業結果の報告。
準備・会議			クラインガルテン農産加工室活用打合。	収穫した蕎麦の試食会実施。そば粉を評価	秋播きソバ用圃場の整備。トラクタ掛け	告知チラシの作成と配布。	第2回収穫セミナーの開催準備。	次年度耕作場所の調査と決定。	年内活動実績について実行委員会総会開催。	27年度の活動計画と予算案を実行委員	「一人一屋台イベント」開催準備。	大麦収穫準備。春の種まきのため圃場整備。
事業執行			五月に種まきセミナー開催。(参加者と蕎麦打ちも体験)	総会兼収穫祭は7月下旬予定。牧山蕎麦の品質評価。	坂本講師を招き「大麦料理教室」を開催。	秋まきソバの「種まき体験セミナー」開催	親子収穫体験講座開催予定。併せて蕎麦打ち体験。	秋ソバの「収穫体験セミナー」	北公民館、牧石婦人会との共催で「地産地消セミナー」開催	金山寺周辺の竹林整備実施。竹チップの圃場への移動	金山寺周辺の竹林整備実施。竹チップの圃場への移動	「一人一屋台イベント」開催予定。
反省会				春そば栽培について		実施セミナー反省会	北公民館長の安達さん		北公民館長に蕎麦打ち	農業体験希望者の堆肥		栽培結果に 関して。
監査報告会							北公民館長へ事業監査要請		公民館長に活動報告			北公民館長へ事業監査要
次年度企画会議											市役所に活動実績の報告	申込書の作成、及び申請。